

小川てつオ『ホームレス文化』（キョートット出版）刊行記念

押尾 健太郎 写真展

# 「20年後のエノアール四季の詩」<sup>うた</sup>

10月2日(木)～5日(日) 14時～19時

@ブックギャラリー ポポタム

東京の公園に暮らす小川てつオといちむらみさが2003年よりテント前で始めたカフェ、エノアール。近隣の野宿者や、様々な人の憩いと交流の場になっています。

今回は2005年頃、押尾健太郎がエノアールで出会った人々を撮った写真を展示します。

小川てつオ新刊サイン会、『PLOUGH YARD 517』の販売もします  
押尾健太郎写真集

2日(木) 夕方からオープニングパーティー



エノアールで絵を描く小川てつオ（2005年、押尾健太郎）

トークイベント

4日(土) 17時～

映画監督（『あしがらさん』など）  
飯田基晴さんを迎えて（押尾・小川と座談会）

両日とも参加費500円、予約不要。

3日(金) 19時～

押尾健太郎×小川てつオ（聞き手 藤本なほ子）

写真家として、雑誌・広告・ウェブなど様々なメディアで活躍する押尾健太郎。タレントらの魅力を引き出す写真で注目されている。

押尾の写真の原点は、留学先のロンドンでホームレス状態にあった男との交流だった。帰国後、エノアールを知り、通ううちに公園に住む人々と親しくなる。関係性の中で生まれる、個性が輝くような写真たち。

押尾は言う。「エノアールに流れている時間が良かった。その空気感を撮ったんだと思う」。

2005年、エノアールの木々にそれらの写真をかけ、展覧会「エノアールの四季の詩」を開く。押尾の初個展だった。

今回は、20年の公園暮らしを綴った小川てつオ『ホームレス文化』刊行に合わせ、20年ぶりにプリントを取り出し、エノアールの空気を存分に表現する。



ブックギャラリー・ポポタム

東京都杉並区成田東  
5-35-7 白い家 A  
電話 03-6685-9011



ポポタムへ

南阿佐ヶ谷駅徒歩 3分  
阿佐ヶ谷駅徒歩 10分

JR 阿佐ヶ谷駅

地下鉄丸ノ内線  
南阿佐ヶ谷駅

青梅街道

## 9月、小川てつオ『ホームレス文化』刊行しました



### 公園に暮らし 20 年、 隣人たちと織りなす生活を綴る

都会の公園の一角、ホームレスの集住地。20年前、そのコミュニティの豊かさに衝撃を受け、自らもテントを建てて暮らし始めた小川てつオ。以来、排除の圧力や社会の変化をくぐり抜け、隣人たちと織りなす生活をブログ「ホームレス文化」で発信し続けてきました。本書はブログより記事を厳選・再構成し、テント村 20 年の生活史として世に送るものです。

差別や暴力の標的、一方で支援の対象とだけ見なされるホームレスという存在。しかし、ここには生活があり、「見えない豊かさ」がある！

「存在そのもの」で生きる魅力的な隣人たちの日常や支え合う知恵が、いきいきとした筆致で描き出されます。公共地に暮らすことで見えてくる、この社会の本質もあぶり出されていく。

本書はテント村の物語であると同時に、ホームレスの「地点」から紡ぐ、生きた思想の書でもあるのです。

### 小川 てつオ

1970 年、東京生まれ。高校卒業後、絵画、詩、音楽、パフォーマンスを制作。1996 年より「居候ライフ」、ゆるやかな共同性の実践を重ねた。2003 年から都内公園でテント生活を始め、現在に至る。

テント前で物々交換カフェ「エノアール」をいちむらみさこさんと運営。246 表現者会議、ねる会議などに参加し、野宿者排除に抵抗する活動を行っている。著書に『このようやり方で 300 年の人生を生きていく [新版] あたいの沖縄旅日記』(キョートット出版) など。

### 小川てつオ『ホームレス文化』 (新刊、キョートット出版)

2,640 円 (税込)

会場では特別付録付きで販売！

——ホームレスの存在こそが、もう一つの世界の始まるべき地点なのだ。  
未来はこちらにこそ、ある。

### 押尾 健太郎

千葉県出身。2000 年、スタジオアシスタントを経てロンドンへ留学し、2003 年に帰国。広告、雑誌、WEB を中心に、人物撮影を主体としたフリーのフォトグラファーとして活動中。

近年は一般人の「家族写真」の撮影も行い、人と人のつながりや温かな時間を丁寧に切り取る。俳優・モデル、映画関係者、一般人まで、さまざまな「人」の表情を豊かに表現している。



### 押尾健太郎『PLOUGH YARD 517』 (2022 年、自費出版)

3,850 円 (税込)

経験を積むためにロンドンに留学していた押尾は、馴染みのパブで風変わりな中年男性(メルヴィン)に出会います。離婚やトラブルで財産や住処を失い意気消沈しながらも奔放に生きるメルヴィンとの邂逅は、押尾のロンドン生活に刺激を与え、押尾は彼と過ごす日々を写真におさめていきました。住んでいたキャンピングカーの炎上、ホームレスになっても生命力たくましい日常、そしてメルヴィンが長く心に留めていたウェールズの灯台へのトリップ……。

まだ駆け出しのフォトグラファーであった若き日の押尾が、異国の地で出会ったメルヴィンという稀有な被写体と向き合い、漂うように生きる彼の姿を、ロードムービーのように写し出しています。

### 14日(土) トークゲスト

#### 飯田 基晴

1996 年よりホームレスの人たちにボランティアとして関わり、98 年からはビデオカメラで記録を行う。2002 年に初の長編ドキュメンタリー映画『あしがらさん』を発表。一人のホームレス男性が地域での暮らしを取り戻すまでの 3 年を描く。

その後の監督作に『犬と猫と人間と』、『逃げ遅れる人々 東日本大震災と障害者』、『わたしを演じる私たち』等がある。映像グループ ローポジシ

ン所属。

現在は和光大学にて映像関係の授業やゼミを受け持つ。

### 13日(金) 聞き手

#### 藤本 なほ子

編集者。シリーズ「あいだで考える」(創元社)などを手がける。女性ホームレスの遺したノートをまとめた『小山さんノート』(小山さんノートワークショップ編、エトセトラブックス)の編者のひとり。編集の仕事のほか、言葉に関する作品制作も行っている。

### 企画

#### キョートット出版

(小川恭平/石田光枝)

〒603-8311 京都市北区紫野上柏野町52-12

電話 050-6872-1904

メール zzz@kyototto.com

<https://kyototto.com>

